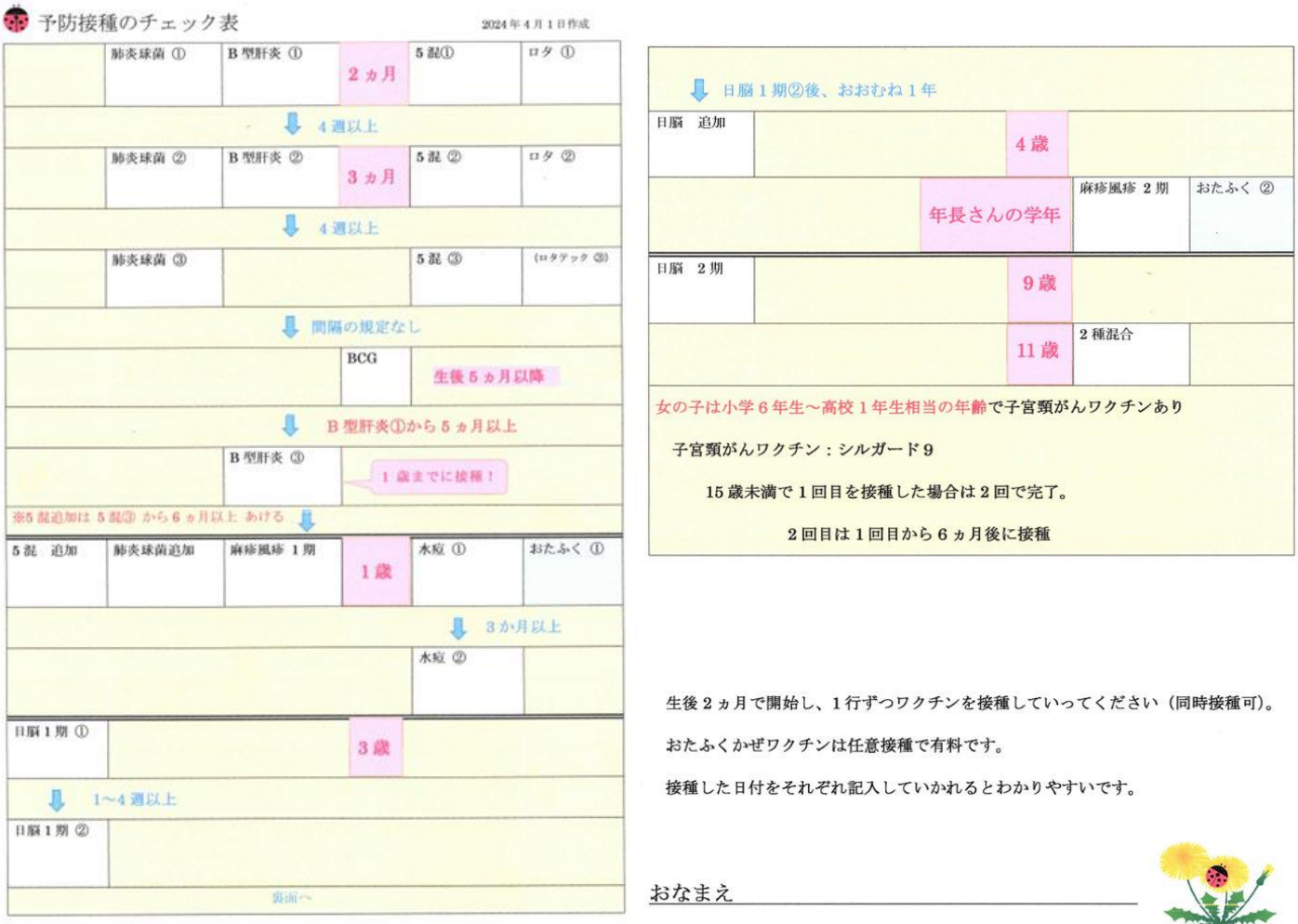


予防接種のチェック表　2024年4月1日作成

	肺炎球菌 ①	B型肝炎 ①	2ヵ月	5混①	ロタ ①
⬇ 4週以上					
	肺炎球菌 ②	B型肝炎 ②	3ヵ月	5混 ②	ロタ ②
⬇ 4週以上					
	肺炎球菌 ③			5混 ③	(ロタテック ③)
⬇ 間隔の規定なし					
			BCG	生後5ヵ月以降	
⬇ B型肝炎①から5ヵ月以上					
		B型肝炎 ③	1歳までに接種！		
※5混追加は 5混③ から6ヵ月以上 あける ⬇					
5混 追加	肺炎球菌追加	麻疹風疹 1期	1歳	水痘 ①	おたふく ①
⬇ 3か月以上					
				水痘 ②	
日脳1期 ①			3歳		
⬇ 1～4週以上					
日脳1期 ②					
裏面へ					

⬇ 日脳1期②後、おおむね1年				
日脳 追加		4歳		
	年長さんの学年		麻疹風疹 2期	おたふく ②
日脳 2期		9歳		
		11歳	2種混合	

女の子は小学6年生～高校1年生相当の年齢で子宮頸がんワクチンあり

子宮頸がんワクチン：シルガード9

15歳未満で1回目を接種した場合は2回で完了。

2回目は1回目から6ヵ月後に接種

生後2ヵ月で開始し、1行ずつワクチンを接種していってください（同時接種可）。

おたふくかぜワクチンは任意接種で有料です。

接種した日付をそれぞれ記入していかれるとわかりやすいです。

おなまえ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

予防接種のチェック表について順番に説明をしていこうと思います。ホームページ内から「予防接種のチェック表」を印刷ができますので可能ならば印刷をしてお手元に置いて見ながら読んでいただけるとありがたいです。また「予防接種の一覧表」もホームページ内から印刷できます。予防接種の一覧表には、それぞれのワクチンについて接種年齢、回数、接種間隔などの情報を載せていますのでご参照ください。

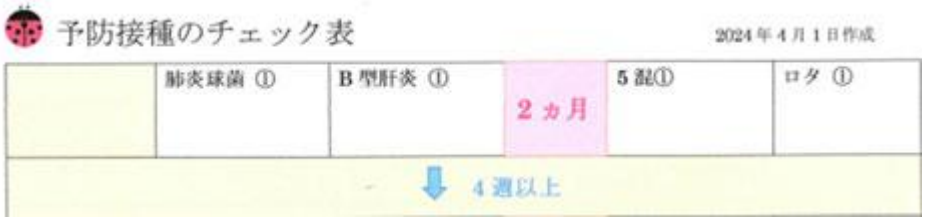
現在は、同時接種といって1回の受診で複数のワクチンを受けるのが主流となっています。同時接種をすることで予防接種により防げる病気を早い時期から予防することができます。

それぞれのワクチンには決まった接種方法があり、受ける年齢や接種回数、接種間隔があります。小児の予防接種はほとんどが公費で受けられるようになりましたが、おたふくかぜワクチンだけは任意接種で費用がかかります。

異なるワクチン同士の接種間隔については、注射の生ワクチン同士の場合のみ4週間（中27日）以上の間隔が必要となります。他の組み合わせでは間隔を空ける必要はありません。

予防接種のチェック表ではワクチンを受けていく年齢順に並べてあります。上から順に1行ずつ複数のワクチンを同時に受けていかれるとスムーズに進みます。では、その内容を以下に解説させていただきます。

① ワクチンは生後２ヵ月から接種できます。



生後２ヵ月になったら、肺炎球菌ワクチン１回目、B 型肝炎ワクチン１回目、5 種混合ワクチン１回目、ロタウイルスワクチン１回目をします。ロタウイルスワクチンは口から飲むワクチンです。5 種混合ワクチンはジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ、ヒブの 5 種類の病気のワクチンです。生後２ヵ月からワクチンは開始できますが、少し遅れて生後３ヵ月や生後４ヵ月で開始でも大丈夫です。しかし、早くに病気から守るという点ではワクチンの開始が遅くならない方が良いです。ヒブ、肺炎球菌は細菌性髄膜炎の原因となる細菌です。細菌性髄膜炎は現代の医学においても命にかかわることがある病気であり、治っても麻痺や発達の遅れを残すことがあります。百日咳は乳児がかかると呼吸を止めてしまう発作や肺炎、脳症を起こして命にかかわる病気です。ロタウイルスは重症の嘔吐、下痢、まれに脳症を起こす病気の原因となります。ロタウイルスワクチンには２回接種のロタリックスと３回接種のロタテックの２種類がありますが、効果としてはほとんど差がありません。細菌性髄膜炎、ロタウイルス胃腸炎ともにワクチン接種により今は激減しています。

B 型肝炎は、ウイルス性肝炎の１種で乳幼児期にかかると症状なくウイルスが体の中で潜伏したままでいることがあります。将来、肝硬変、肝がんの原因となることがある病気です。

ジフテリアは、のどに偽膜という分厚い膜ができる感染症です。今では稀です。

破傷風は、深い傷が土などで汚染された際になることがある病気で全身の痙攣を来たし致死的となることがあります。

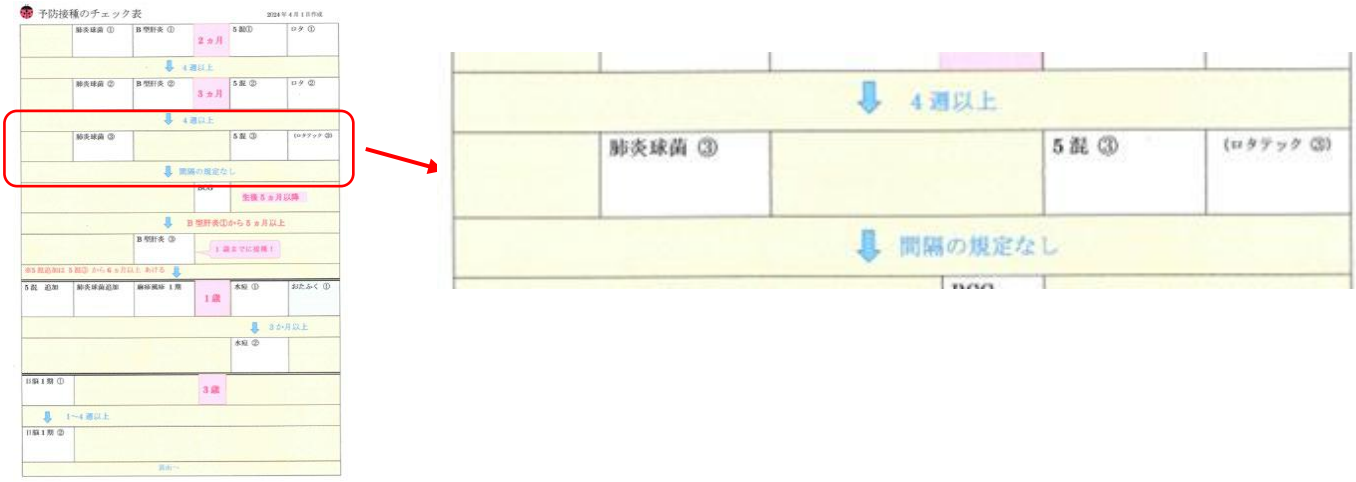
ポリオは、かつて小児麻痺といわれていた病気で今は日本国内では稀です。

※ 稀な病気であっても多くの方がワクチンをしていることでその病気が稀な状態を維持できています。ワクチンをしておくことは非常に重要です。

② 1回目のワクチンから4週以上あけて2回目のワクチンをします。

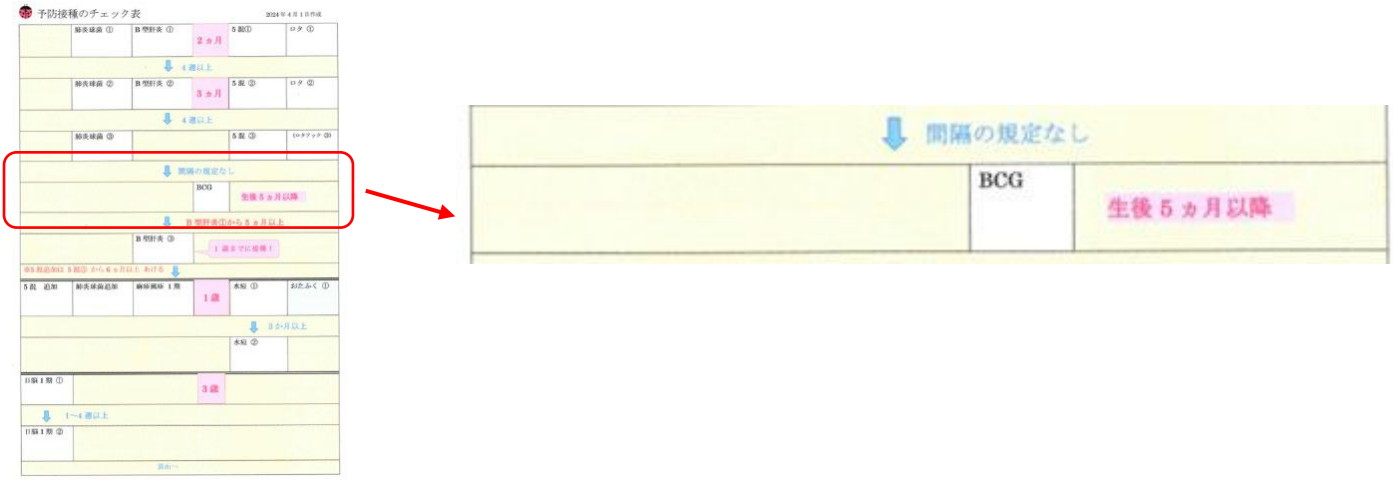
肺炎球菌ワクチン2回目、B型肝炎ワクチン2回目、5種混合ワクチン2回目、ロタウイルスワクチン2回目をします。生後2ヵ月でワクチン開始の場合は生後3ヵ月での接種となります。1回目のワクチンで獲得された免疫ではまだ弱いのでさらに免疫を高めるために接種します。2回目のワクチンが終了しているとある程度の免疫が期待できるようになると言われています。

③ 2回目のワクチンから4週以上あけて3回目のワクチンをします。



肺炎球菌ワクチン3回目、5種混合ワクチン3回目をします。ロタウイルスワクチンはロタテックという3回接種のものを選んだ場合はここで3回目を飲みます（ロタリックスの場合は2回で終了）。生後2ヵ月でワクチン開始の場合は生後4ヵ月での接種となります。ワクチンによる免疫をさらに高め長続きさせるために必要な接種です。B型肝炎ワクチンの3回目はもう少し先になります。

④ 生後５ヵ月になったら BCG をします。

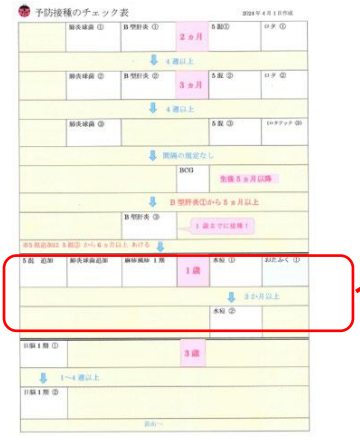


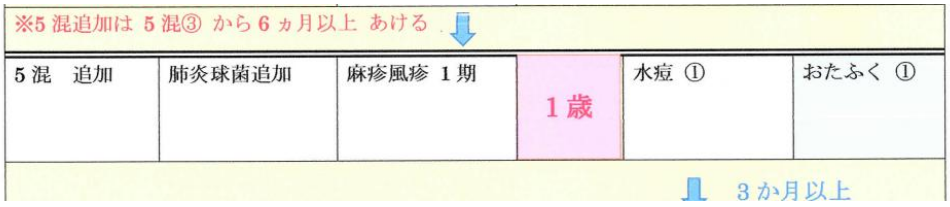
生後５ヵ月以降１歳未満で BCG をします。BCG は結核のワクチンです。乳幼児期に結核になると結核性髄膜炎や粟粒結核といった重症になるため必要なワクチンです。

⑤ B 型肝炎ワクチンの１回目から５ヵ月以上あけて B 型肝炎ワクチンの３回目をします。

B 型肝炎ワクチンの３回目をします。１歳になるまでに行います。先の２回のワクチンによる免疫を高め長続きさせるために行います。

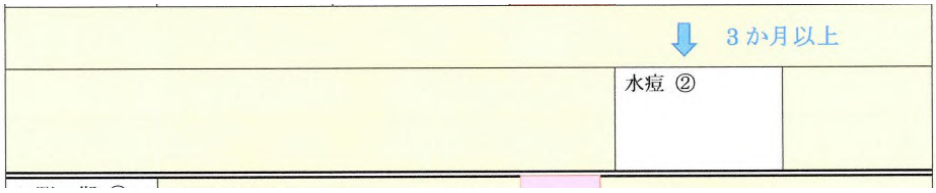
⑥ １歳になったら５種混合追加、肺炎球菌追加、麻疹風疹ワクチン１期、水痘ワクチン１回目、おたふくかぜワクチン１回目を受けます。　※おたふくかぜワクチンは自費





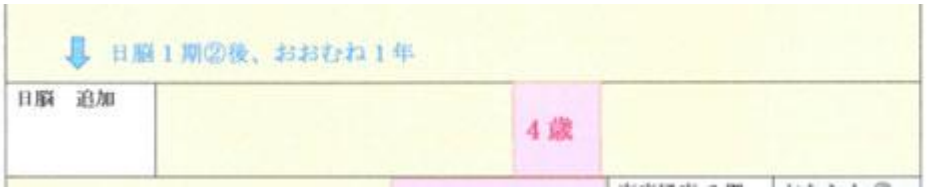
以前に３回接種した５種混合ワクチン、肺炎球菌ワクチンによる免疫が少し下がってきているので免疫を再度上げるために追加接種を行います。麻疹（はしか）は日本国内に定着しているウイルスは現在はないものの海外から持ち帰られるものが時々あります。麻疹は江戸時代や明治時代には生きていけるかどうかの試練という意味で「命定め」と言われ命を落とす子供がたくさんいたそうです。現在においても麻疹が重症の病気であることに変わりはなくワクチンによる予防が何より重要です。風疹は麻疹ほど命にかかわることは多くはありませんが、妊婦がかかると赤ちゃんが心臓の病気や難聴、白内障になることがあるので予防が重要です。水痘は全身に水膨れを伴う赤いブツブツが多数できる病気です。感染力が強く周囲の人に広がることが多いです。現在、水痘ワクチンは２回の接種が公費で行われているので水痘になる子どもは以前に比べてかなり減っています。おたふくかぜは、耳の前から下にある耳下腺が腫れて痛む病気です。おたふくかぜにかかると難聴になることが時にあります。なかにはおたふくかぜの症状がみられずにこっそり感染して難聴になることもあります。おたふくかぜワクチンを受けることでこの難聴になる危険性はかなり下げられることが知られています。

⑦ 水痘ワクチンの２回目を受けます。



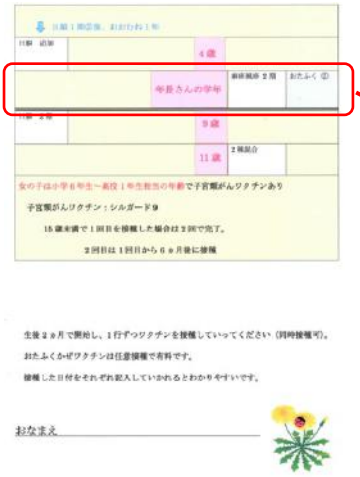
水痘ワクチンの２回目は１回目のあと３ヵ月以上あければ接種できます。早くに２回の接種を済ませてしっかりと免疫を付けておくことをお勧めします。水痘ワクチンを公費で受けられるのは３歳になるまでです。

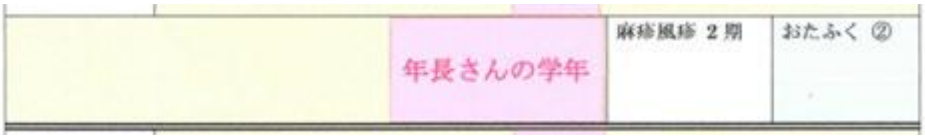
⑧ 3 歳になったら日本脳炎ワクチンを受けます。



3 歳になったら日本脳炎ワクチンを 2 回受けます。接種間隔は 1～4 週間が標準です。日本脳炎ワクチン開始年齢は標準的には 3 歳からとなっています。日本では時に見られる程度の病気ですが、みんながワクチン受けていることで予防できているものと思われます。日本脳炎ワクチンの追加接種は 2 回目のワクチンのあと概ね 1 年（最短 6 ヵ月）以上あけてとなります。

⑨ 年長さんで麻疹風疹ワクチン 2 期、おたふくかぜワクチン 2 回目をします。ともに 1 回目のワクチンによる免疫が下がってきたのを再び高めて長続きさせるためのものです。　※おたふくかぜワクチンは自費





⑩ 9 歳で日本脳炎ワクチン 2 期を受けます。

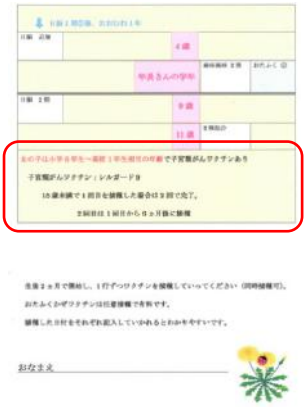
以前に受けた 3 回のワクチンによる免疫を再び高めて長続きさせるようにするためのものです。

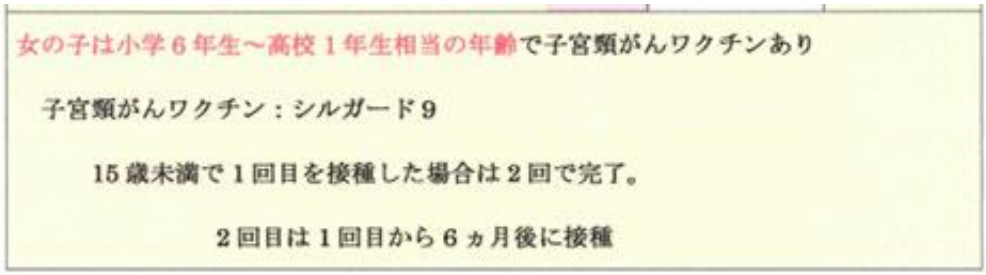
⑪ 11 歳で 2 種混合ワクチンを受けます。

2 種混合ワクチンはジフテリアと破傷風のワクチンです。以前に受けた 5 種混合ワクチンにも入っていましたが、そろそろ免疫が落ちてきた頃なので再び高めて長続きさせるためのものです。

ジフテリアは稀な病気ですが、破傷風は野外活動などで怪我をして傷が土などで汚染された際にかかる可能性があります。

⑫ 女の子は小学校 6 年～高校 1 年生で子宮頸がんワクチンを受けます。接種回数は通常は 3 回ですが、15 歳未満で 1 回目を受けると 2 回で済みます。





※ 以前に子宮頸がんワクチンを接種した人で問題となった症状については、大規模な研究が行われてワクチンを受けた人と受けてない人との間にその症状の出現率に差がなかったことが明らかにされています。
（Suzuki S et al. Papillomavirus Res. 2018;5:96-103）

※ スウェーデンでの研究でワクチンを接種した人では子宮頸がんの発症リスクが 63%低下したというデータがあります。年齢別にみると 17 歳未満で接種した人では 88%低下、17～30 歳で接種した人でも 53%低下したとのことです。（Lei J et al. N Engl J Med. 2020;383:1340-1348）